

# ノシメマダラメイガ

東京の  
生活害虫

5



●ノシメマダラメイガ成虫(開張\*約15mm)



●ノシメマダラメイガ成虫(体長約10mm)



●被害を受けたクルミ(左)とナッツ入りキャンディー(右)

食品を加害するメイガにはたくさんの種類がありますが、ノシメマダラメイガの幼虫による被害がもっとも多くみられます。

## 形態と被害

ノシメマダラメイガはノシメコクガともいわれ、代表的な食品害虫です。

成虫は開張\*15mmほどの蛾で、翅は白と赤茶色をしています。室内をチラチラと飛びまわるのがよく見られ、餌や餌の周辺に数十個から二百個以上の卵を産みつけます。成虫は餌をとらず、食品に被害を与えることはありません。

幼虫は細長いイモムシ状で、十分に成長すると体長10mm前後になります。普通は淡黄色ですが、白・ピンク・淡緑色などを帯びることもあります。

幼虫は穀物、穀粉、乾めん、菓子、乾燥野菜、乾燥果実、ナッツ、チョコレート、七味唐辛子、小鳥の餌など、さまざまな食品に被害を与えます。餌のクズが糸でつづられたようになるのが特徴です。

## 防除

発生源を確かめ、幼虫のついた食品を処分します。食品棚にこぼれた少量の粉などが、原因になることもありますので、よく調べてください。

\* 翅を左右いっぱいを開いた時の翅の先から先までの幅

